

もたずねています。面川沢の、かつてお世話になった鹿目留吉の家には、野良のら着ぎのたしにでもと洋服や帽子や靴くつなどをおくりとどけています。

昭和二十年（一九四五年）、太平洋戦争が終った年の十二月十三日、柴五郎は八十七歳の生涯しょうがいを閉じて永遠とこにこの世を去りました。軍人としての道を歩み

ましたが、戦争の悲惨ひさんさ、戦争に負けたもののみじめさをよく知っている柴五郎は、もつとも平和を愛していた人でもあったのです。

「会津のはじをそそぐまでは……………」  
と父にさとされた言葉を忘れず、柴五郎は一生武士道・会津魂を持ち続け、心の底に

